Ⅰ　はじめに

　１　策定の趣旨

大阪府中央卸売市場(以下「府市場」という。)では、2017年3月に中期経営計画である『経営展望』（2017年度～2021年度）を策定し、“競争力のある市場”の実現をめざして、市場活性化等の取組みを進めてきた。

一方、府市場は、開設から40年以上が経過し、施設の老朽化への対応と合わせ、急速に変化する物流構造やＩＴ技術の進化、市場間競争の激化等に対応できるハード・ソフト両面の機能強化が求められており、2020年度から2021年度にかけて、市場の将来のあり方について検討を行った。

その結果、2022年度以降、民間資本を活用した建替えによる再整備について、具体的な検討を進めていくことになったが、その間においても、既存施設を活用しながら、市場機能を維持し、引き続き、“競争力のある市場”の実現をめざす取組みを継続する必要がある。

このため、当面の5年間について、既存施設の適切な維持管理に取り組みつつ、計画的で安定的な経営を行えるよう、ハード・ソフト両面にわたる経営方針及び収支計画を定める「経営戦略」を策定することとした。

策定に当たっては、場内事業者はもとより、消費者・実需者等の代表も加わった「大阪府中央卸売市場運営取引業務協議会」のご意見も伺い、幅広い意見の反映に努めた。

なお、本計画は、2015年９月に国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」の観点も踏まえ、推進していく。

２　計画期間

2022年度から2026年度までの５ヵ年とする。

経営展望(2017年度～2021年度)の取組み成果

2017年3月に策定した経営展望では、“競争力のある市場”の実現をめざすため、市場のとるべき方策を５つの基本戦略として掲げ、それに基づく行動計画を定めた。

2020年度までに、行動計画に基づく取組みにより、同計画の全34項目中29項目(85.3％)に

おいて、一定の成果を上げている。※各項目の取組み状況については、P.25を参照

経営展望の取組みの主な成果

|  |  |
| --- | --- |
| 基本戦略 | 主な成果 |
| １．流通の変化に対応した「機動性」  のある市場  広域的な集荷・転送・分荷機能の強化 | 大屋根拡張工事による荷捌き・積込スペースの増加、青果大通りの車両動線の確保、駐車場の幅員拡幅、大型駐車場区画の増設など |
| ２．ニーズに対応した「付加価値」  を重視する市場  コールドチェーン化の推進、加工機能等の充実 | 仲卸事業者が商品の鮮度を保つ低(定)温化設備を設置する場合の事業費に対する補助の実施、空き店舗を活用した加工施設や冷蔵施設の整備など |
| ３．「民間活力」をフルに活用する開かれた市場  指定管理者による効率的な運営  外部活力の導入 | 指定管理者による民間のノウハウを活かしたサービス水準を低下させることのない経費削減(水光熱費など)、効率的な運営及び活性化事業の実施(防犯カメラ及びトイレの改修他)など |
| ４．場内外の連携強化で「活性化事業」  に取り組む市場  産地や量販店、大学等との共同事業の展開 | 産地や量販店と場内事業者が連携した「市場まつり」や「市場開放デー」などのイベント開催による販売促進や認知度向上、連携大学とのレシピ開発などの共同事業による食育の推進など |
| ５．場内事業者の「自律的な取組み」  を重視する市場  場内一丸での場内ルール順守の徹底 | 市場内の荷捌きルールの構築、不法駐車の排除、ＬＥＤ照明の設置、不法投棄の防止及び廃棄物処理量や処理費用の抑制、禁煙指導員の巡回による喫煙ルールの徹底など |